

## 前方後円墳の出現

寒川 史也

### 1. 前方後円墳について

円形をした主丘に、方形の突出部がとりつく墳丘をもつ「古墳」です。蒲生君平が『山陵志』で取り上げた以降に、用語として定着します。その起源については諸説ありますが、前方後円墳は古墳時代前期初頭(3世紀の中頃)から、後期末(6世紀の末もしくは7世紀の初頭)まで、およそ350年といった長期間築造され続けます。列島における分布は、墳丘の長さが100mを超すもので、南は鹿児島県から北は宮城県まで広がっているなど、まさに古墳時代という時代を体現する構造物です。

### 2. 岡山平野における古墳時代のはじまり

初期の大型前方後円墳として取り上げられるのが、現在の岡山市東区に所在する浦間茶白山古墳(墳長140m)です。この古墳で注目すべき点をいくつか挙げると、墳丘の大きさは第一ですが、長大な竪穴式石槨の採用、そこにおさめらえた副葬品、そして出土埴輪といった各要素に着目しても、弥生時代の終末期に築かれた「墳丘墓」においてみとめられるものとは一線を画しています。

### 3. 前期前半期の古墳の諸特徴

前方後円墳の出現には、各地域の有力者の結びつきが不可欠であったと考えられますが、上記の浦間茶白山古墳の築造をみても、吉備勢力の関与は深く、大きな役割を担っていたと捉えられます。特に箸墓古墳を嚆矢とし、続々と築造される奈良県東南部の大型前方後円墳との共通項も多々見出され、当地域と太いパイプを維持したものと推測されます。

一方で、地域内における古墳づくりのあり方をみると、例えば、前期古墳の副葬品で代表的な三角縁神獣鏡が出土する古墳では、墳形も前方後円墳・前方後方墳・円墳といったように異なるものが採用されるなど、古墳被葬者のある種の自立性や主体性が垣間みられます。こうした墳形や副葬品にみる差もそうですが、他にも埴輪の有無、竪穴式石槨において使用される石材の相違といったように、初期の古墳には一括りにはいれない多様性をみることができます。

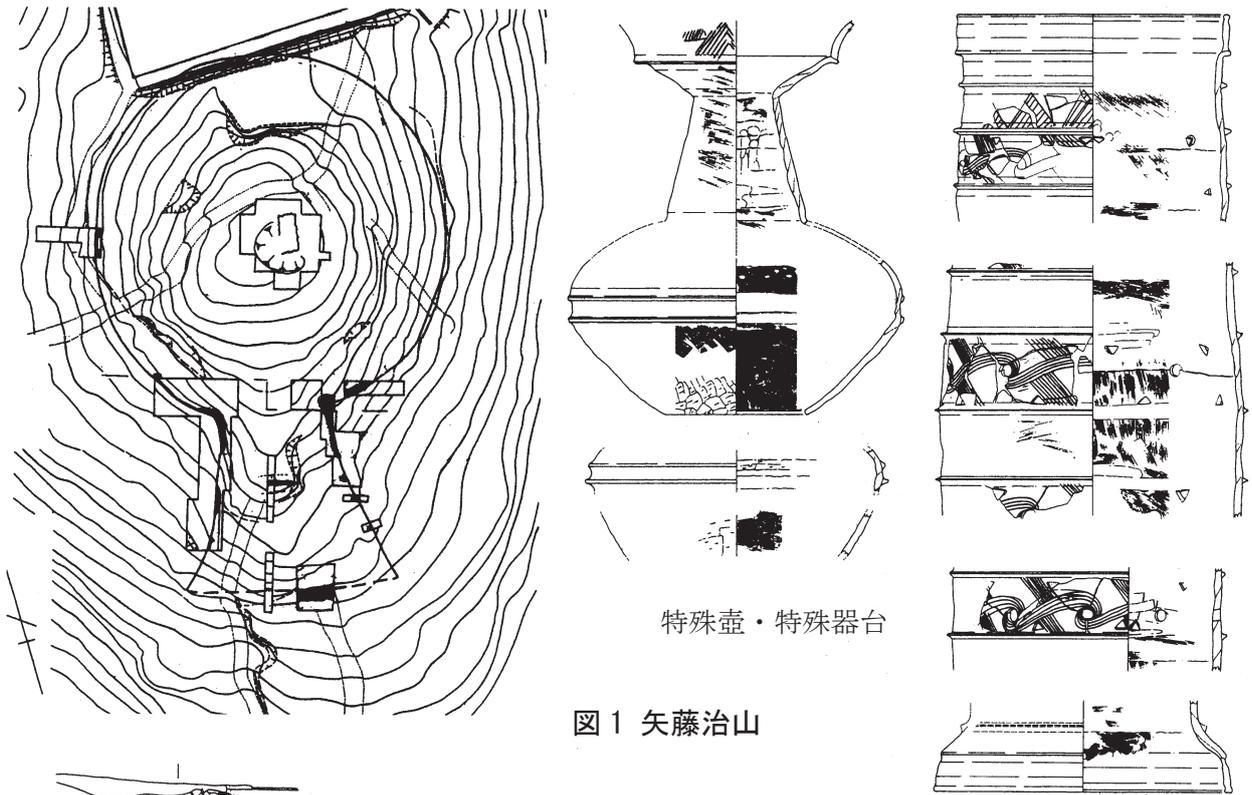
#### < 主要古墳の諸元 >

浦間茶白山古墳(前方後円墳 140m:竪穴式石槨 / 特殊器台形埴輪、特殊壺形埴輪 / 鏡 1 面、銅鏃、鉄製武器、鉄製武具、鉄製農工漁具、伝玉類?)

網浜茶白山古墳(前方後円墳 92m:竪穴式石槨? / 特殊器台形埴輪、特殊壺形埴輪 / ?)

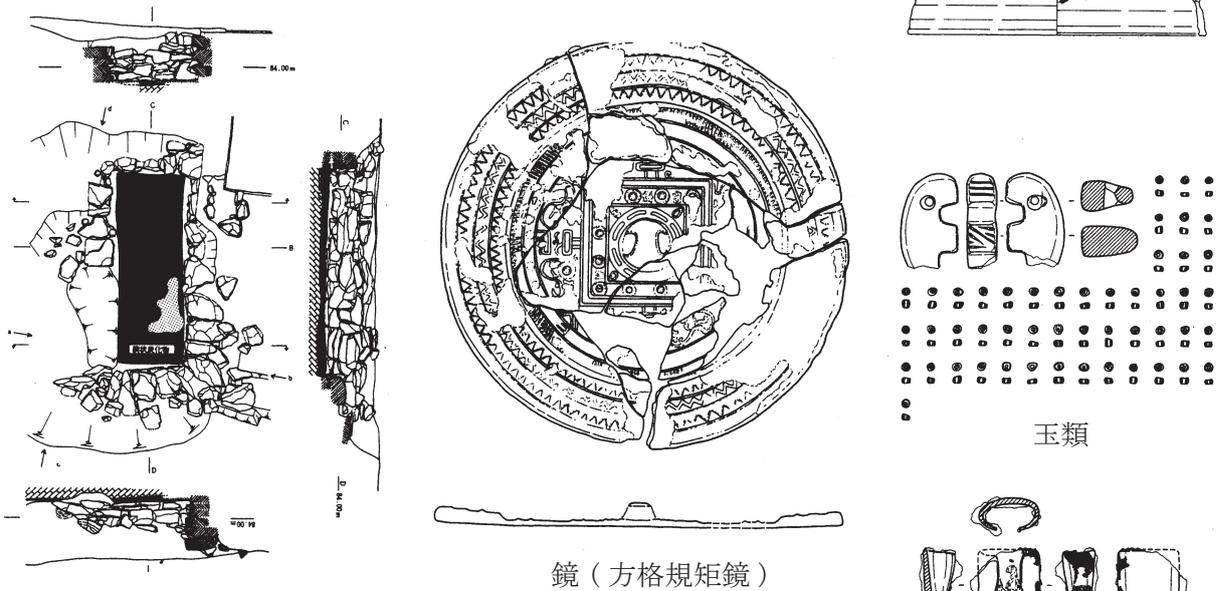
操山 109 号墳(前方後円墳 76m:竪穴式石槨? / 特殊器台形埴輪、特殊壺形埴輪 / 伝鏡 8 面、玉類?)

備前車塚古墳(前方後方墳 48m:竪穴式石槨 / 土師器 / 鏡 13 面、鉄製武器、鉄製工具、靱)



特殊壺・特殊器台

図1 矢藤治山



鏡（方格規矩鏡）

玉類

鉄斧

< 図の出典 >

図1：近藤義郎編 1995『岡山市 矢藤治山弥生墳丘墓』矢藤治山弥生墳丘墓発掘調査団

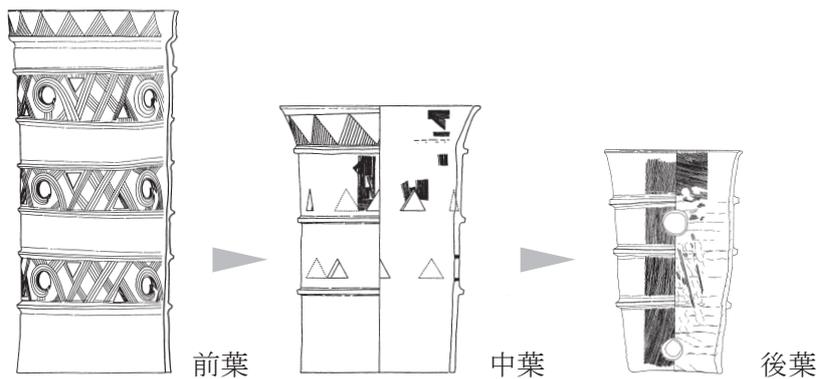
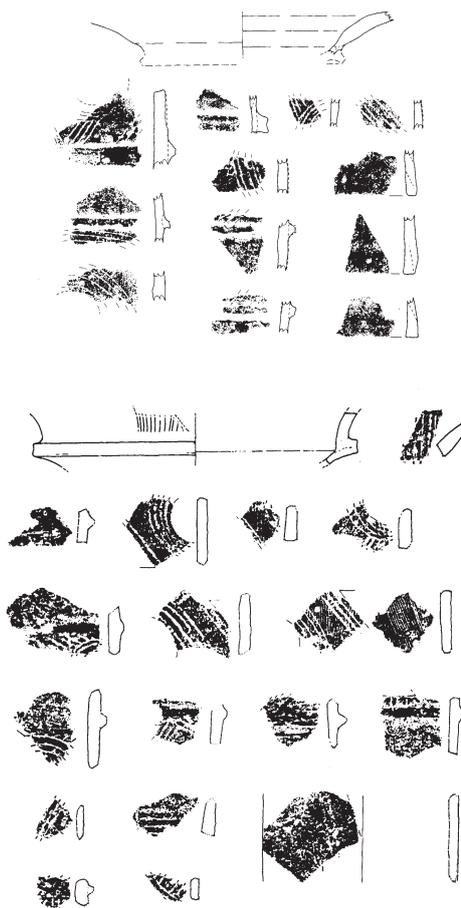
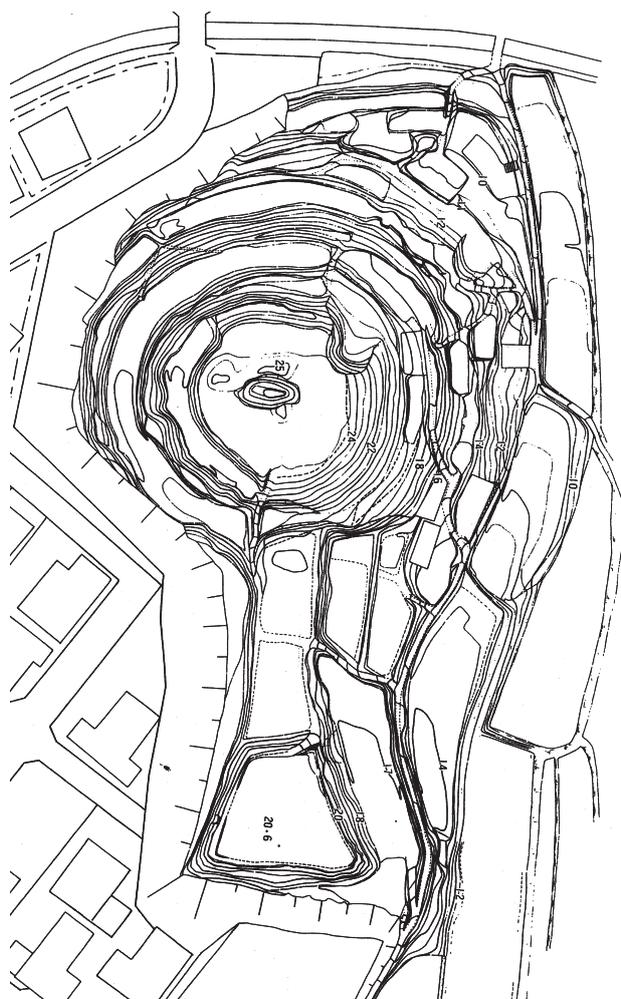
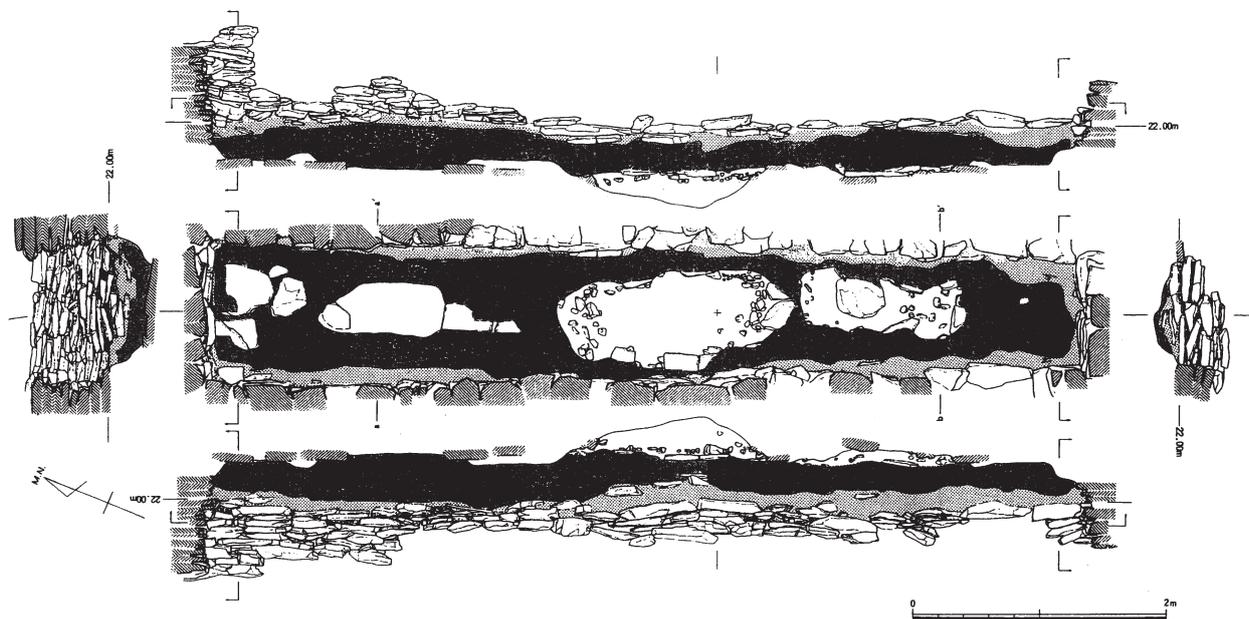
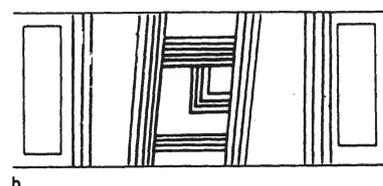
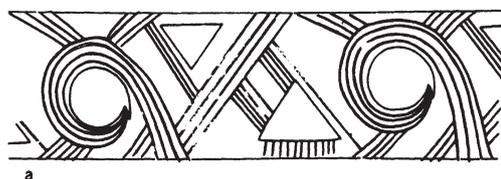


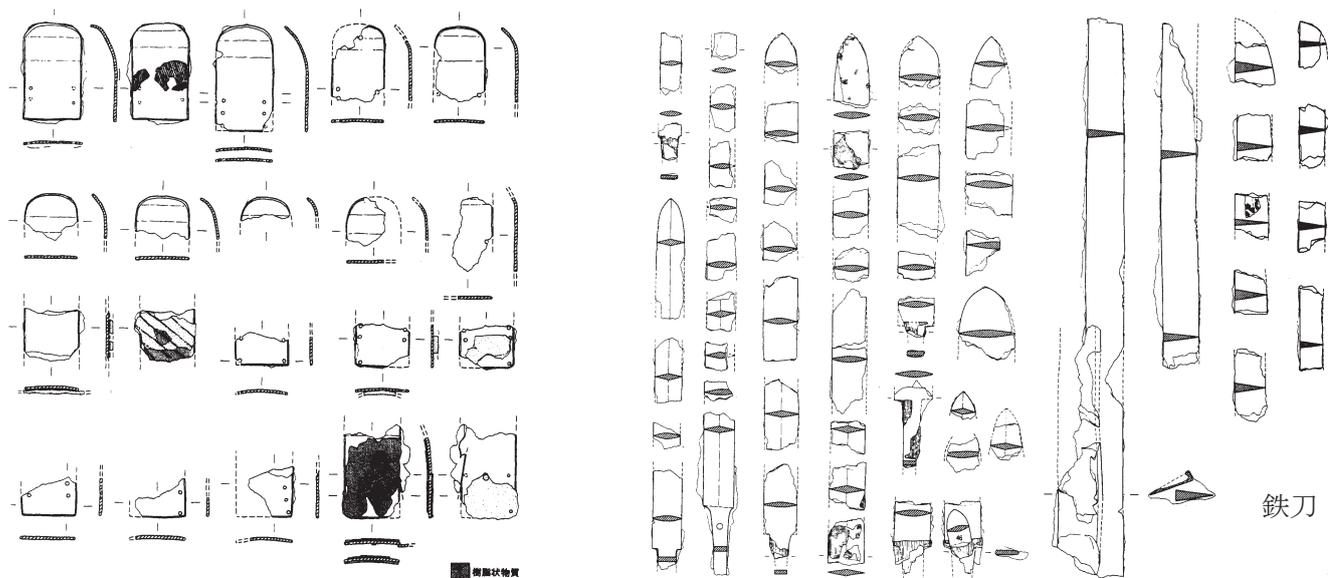
図2 古墳時代前期における埴輪の変遷



特殊器台形埴輪・特殊壺形埴輪

図 3 浦間茶臼山古墳

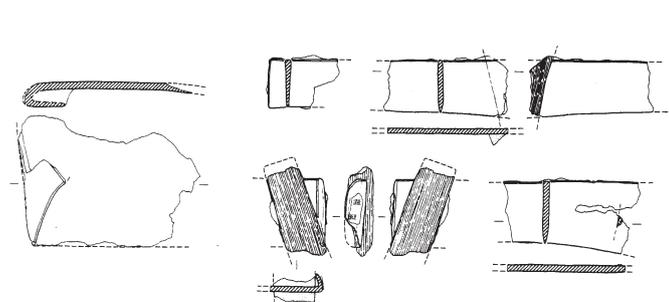




武器の部品

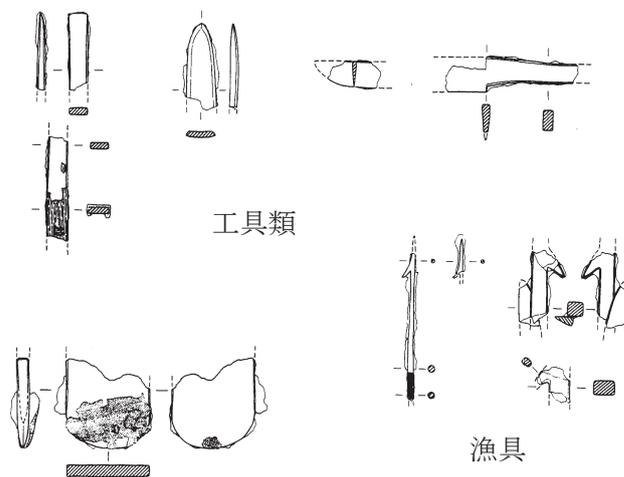
鉄剣

鉄刀



鋤鍬先

鉄鎌

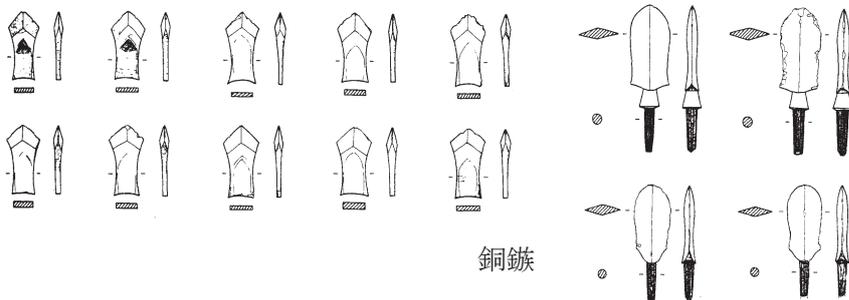


工具類

漁具



鏡 (獣帯鏡)

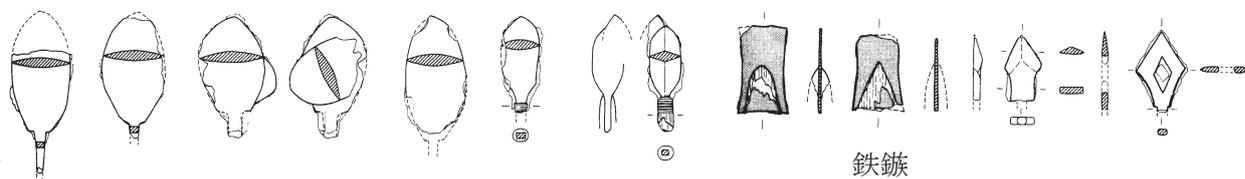


銅鏡

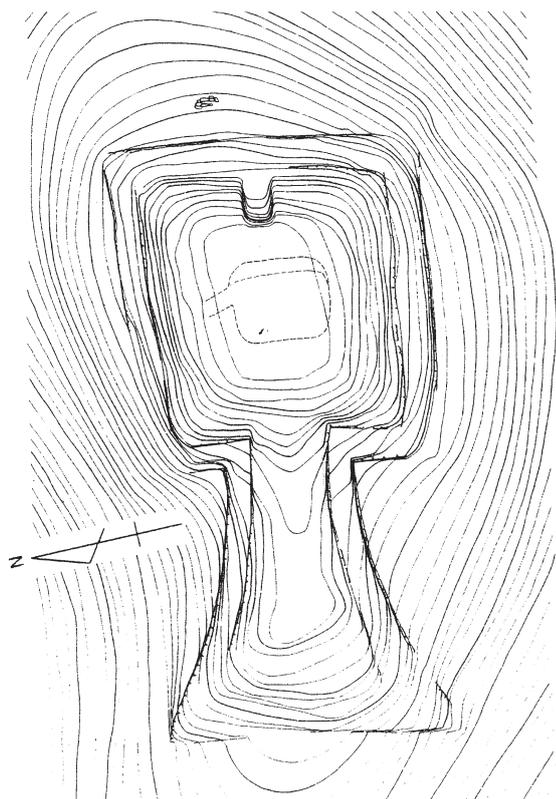
< 図の出典 >

図 3： 宇垣匡雅 1987 「吉備の前期古墳 I 浦間茶白山古墳の測量調査」『古代吉備』第 9 集

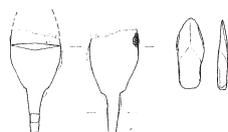
近藤義郎編 1991 『浦間茶白山古墳』浦間茶白山古墳発掘調査団・真陽社



鉄鎌



鏡（三角縁神獸鏡）

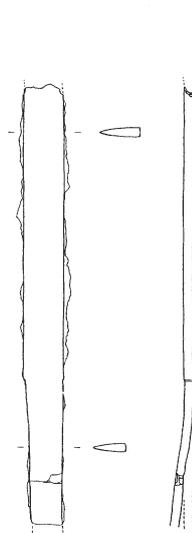


鉄鋤

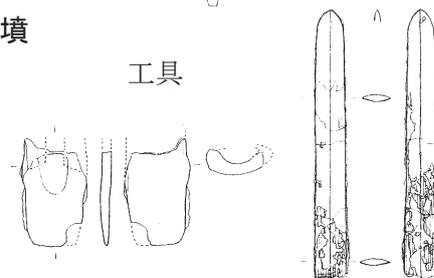


工具

図 4 備前車塚古墳



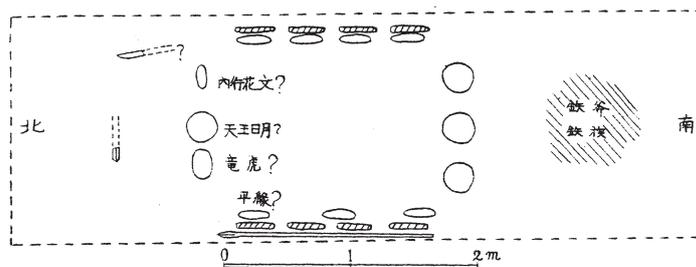
鉄刀



鉄剣

< 図の出典 >

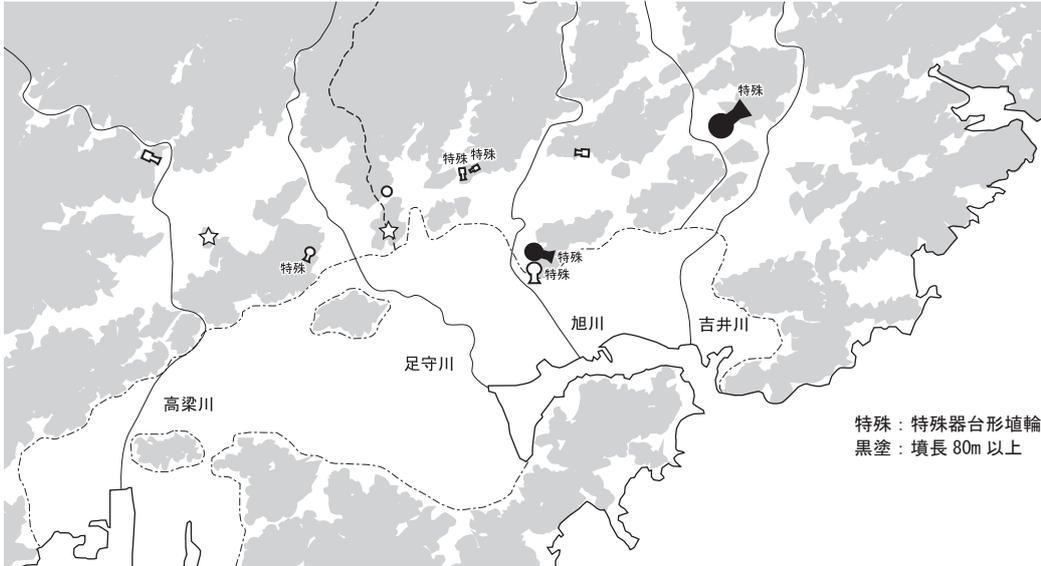
図 4：鎌木義昌 1962 「備前車塚古墳」『岡山市史』古代編 岡山市  
 近藤義郎・鎌木義昌 1986 「備前車塚古墳」『岡山県史』第 18 卷  
 考古資料 岡山県



石槨内における副葬品出土状況の推定

# 資料 5

前期前葉



前期中ごろ



図 5 岡山南部の平野における古墳築造の変遷

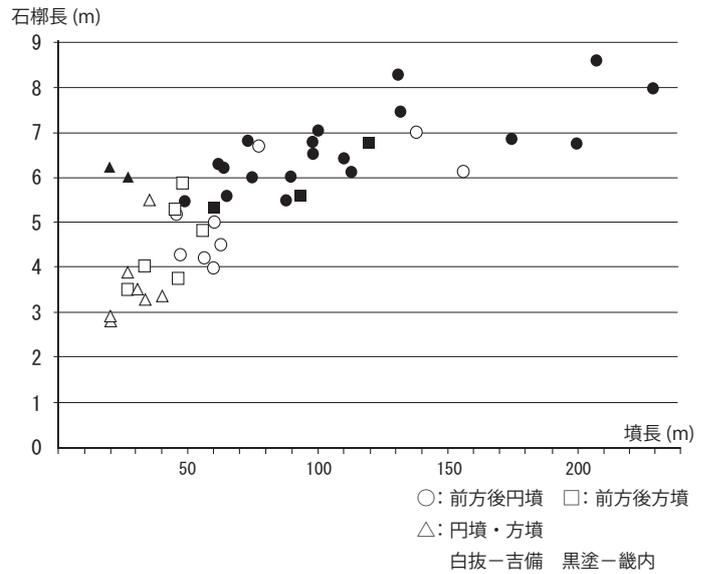
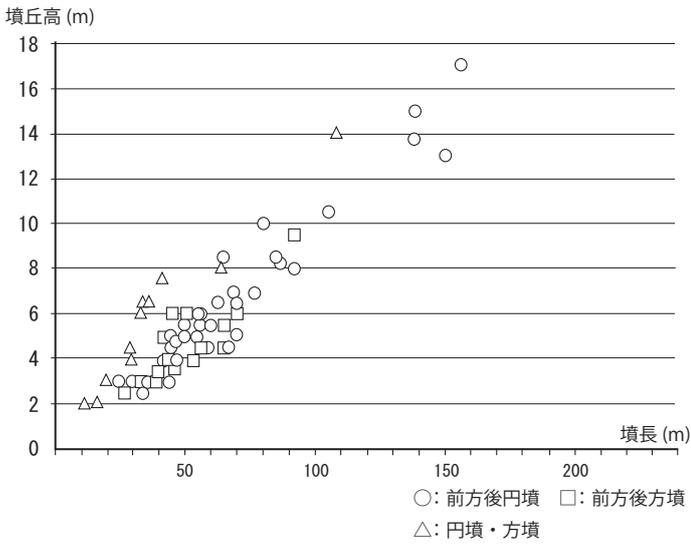


図 6 墳丘規模（長さ・高さ）と主体部長の関係性